

開催期間：令和4年9月24日（土）～25日（日）

会場：公益社団法人福島県トラック協会 レクリエーション施設

参加者：9名

派遣講師：高坂正治 准範士六段（少林寺拳法連盟 中学校武道授業推進委員会 委員長）

小井寿史 大拳士五段（少林寺拳法連盟 中学校武道授業推進委員会 委員）

【1日目】

はじめに、小井講師が一単元分の授業の流れについて実演を交えながら講義を行った。その後、小井講師が教師役となり、龍王拳第一系の単独演武、相対演武の完成を目標とした授業パッケージを提示した。参加者は構えを用いたじゃんけんゲームや音楽を用いたリズム演武など、中学生の興味関心を引くユニークな実技指導を体験した。

その後、タブレットで撮影した演武を相互評価するグループワークを行った。小井講師は「主体的に学ぶ姿勢を評価すること」の難しさについて言及し、グループワークで相互評価する際に生じる、生徒間の「教え



タブレットで撮影した演武を確認する参加者たち

る・教えられる」経験を振り返りシートに書かせることにより、生徒の「主体性」や「関心・意欲・態度」の評価に妥当性を持たせることができると述べた。また ICT 教材を活用した授業形態については、「授業用資料を生徒に共有することで、生徒が授業ごとの目標や練習中に気になったことをすぐ参照できる」などのメリットを挙げた。

続いて、高坂講師も一単元分の授業の流れについて講義を行った。天地拳第一系、龍王拳第一系、義和拳第一系、白蓮拳第一系の四つを組み合わせた形を、4人一組で行う団体演武の完成を目標とする授業パッケージを提示した。まず高坂講師は、参加者に授業の最終目標のイメージを持ってもらうため、実際に大学の授業で単元テストを行っている様子を紹介した。4つの形は細かな動きを削ぎ落とし、授業用に単純化されたものであるため、参加者は短時間で習得することができたが、4人でタイミングを合わせて演武することに苦戦している様子が見受けられた。

【2日目】

参加者を2グループに分け、単元計画の作成と発表を行った。小井講師は参加者の単元計画を講評し「授業ごとに目標を設定し、授業の初めに生徒と共有することで、生徒も教師も明確なビジョンを持って授業に臨める」「経験者が難しいと認識している形も、簡略化することで教材として活用することもできる」などアドバイスをした。その他、授業運営の工夫について、過去に中学校の武道授業の授業協力者を経験した参加者から「限られた授業時間の中で、技の説明などは時間を割いてしまうため、すべて冊子にして、授業の時間の大半を実技指導に充てた」などの工夫も述べられ、講師・参加者で意見交換を行った。



研修会資料を参考に、グループで単元計画を作成

続いて、高坂講師による教材研究が行われた。高坂講師は「鉤手守方や梃子の理など、少林寺拳法の理法を授業内で体験させるための教材について、参加者の方々のノウハウを参考にしたい」と述べ、日頃スポーツ少年団や道場で指導する参加者とディスカッションを交わした。